

平成28年 第7回伊那地域協議会会議録

開催日	平成29年2月1日(水)								
開催時間	開 会	午後6時30分			閉 会	午後8時10分			
開催場所	伊那市役所 1階 多目的ホール								
委員の出欠 出席35名 欠席4名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	出	31	岩本 庄平	出
	2	守屋 武夫	出	17	西澤 茂也	出	32	高橋 陽子	欠
	3	伊藤 仁	出	18	藤澤 香澄	出	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	出	19	若林 一雄	出	34	鈴木 優子	出
	5	白鳥 始	出	20	池上 直樹	欠	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	出	21	宮下 平治	出	36	武田 登	出
	7	中村 初治	出	22	畑 英城	出	37	平賀 裕子	出
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	出	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	出	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	田中 利幸	出			
	12	酒井 秋雄	出	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	増田 良平	出			
	14	米窪 砂男	出	29	細田 勇次	出			
15	平澤 徹	出	30	武田 禎祐	出				
署名委員	西澤 茂也			藤澤 香澄					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
議 事	協議事項 (1) 伊那地域の課題等の解決に向けた提言書(案)について (2) 平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金について (3) 伊那地域協議会での検討テーマについて (4) その他								

配布資料	資料 No. 1	伊那地域自治区提言書（案）
	資料 No. 1-2	区の事業・会計年度について
	資料 No. 2	平成 29 年度伊那市協働のまちづくり交付金
	資料 No. 3	伊那地域協議会に係るアンケート

1 開会

久保村副会長により、開会する。

（欠席の報告）

2 報告事項

（事務局）

委員の交代について報告する。民生児童委員協議会から田中利幸さんに委員をお願いすることになった。

3 あいさつ（会長より）

年が改まり、本年もよろしくお願ひしたい。案内のように本日の協議の柱は3つあり、1つは提言書（案）について、2つ目は平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金について、3つ目は伊那地域協議会の検討テーマについてである。よろしくお願ひしたい。

4 会議録署名人の指定について

（会長）

会議録署名人に17番 西澤 茂也委員、18番 藤澤 香澄委員を指名する。

5 協議

（1）伊那地域の課題等の解決に向けた提言書（案）について

（事務局）

伊那地域協議会のグループ検討テーマの区の年度変更について、先日文書でもお知らせしたが、この件について委員の皆さんにお詫びを申し上げたい。12月に新聞等で区の年度について行政の年度と統一するよう市が取り組んでいくという報道がされた。これについては、伊那地域協議会の委員の皆さんにグループ検討をしていただいたということは私共はもちろん承知しており、また全市的に市民の皆さんから変更すべきだという話も以前からいただいていたところである。伊那地域協議会、別の協議会の中でもそのテーマについて議論がされていたということもあり、市全体としてもこの課題について方向性を見出す必要があることから、去年の区長と今年の区長を対象にアンケートを行った。アンケートの結果や地域の皆さんからの意見、また、地域協議会においても検討がされている方向性等から、年度の変更に向けての動きや市の方針を、お手元の資料No1-2により区長会に説明した。また、この件については議会の全員協議会でも市としての方針を区長会に示したことを説明しており、議会の説明の際に報道が入っているので新聞記事となった。市の

方針としては、全ての地区で行政年度との統一に向けた検討を始めていただきたいと区長会へお願いをした。アンケートの中で移行時期については、大半が平成31年4月からという回答で、平成32年の4月以降からという意見もある中で、各区において検討していただきたいということから、市としては平成32年の4月を目途として調整をお願いしたいとの方針を出した。地域協議会の皆さんがグループ討議をしているところに、市の動きをお知らせすべきところが欠落してしまったので、委員の皆さんに混乱・心配をかけたしまった。ご迷惑をおかけしてしまったことを心からお詫びする。提言については、本日地域協議会の委員の皆さんに再度確認をいただき次第、正副会長に市長へ提言をしていただきたいと考えている。提言書の内容については担当係長から説明する。

(事務局)

伊那地域の課題等の解決に向けた提言書(案)について説明。

<質疑・応答>

(委員)

区の会計年度の変更は9月の終わりには既に結論が出ていたことになる。それが今これから提案を出すのでは、市の発表の追認になってしまう。スピード感がないのではないか。市が方針を出す前に地域協議会で提言を出せなかったのか。これからはスピードを持って進めていただきたい。

(事務局)

10月18日に区長会長会に市の方針を説明した。その後に11月の伊那地域協議会があったわけだが、市の動きをしっかりと説明すべきだったと思っている。皆さんにご迷惑をおかけした。スピード感においても委員さんからの意見のとおり、そういった観点を持って取り組んでいきたいと思う。

(2) 平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金

(事務局)

平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金について説明。

(会長)

スケジュールについて確認いただいた。2月1日から3月15日までが募集期間で、3月下旬にこの協議会に報告し、4月上旬に選考委員会、中旬に決定・通知と進めていく。金額については先程説明があったとおりだが、質問はあるか。

<質疑・応答>

(委員)

以前も提案した交付金の配分だが、基本額をもう少し変更したらどうか。人数に応じて基本額にメリハリをつけたらどうか。

(事務局)

配分額については前回も質問いただき同様に回答をさせていただいているが、基本額を設けることにより人口が少ない地域でも、ある程度の金額を確保し事業を実施できるようにという配慮から均等割を60%に設定している。人口が少ない地区があまりにも配分額が少なくならないようにという配慮なのでご理解いただきたい。

(委員)

交付金の対象事業の内容は昨年度と同じ内容か。

(事務局)

同じである。ここに示してあるのは活用例であり、これ以外は申請できないということではない。活用内容については変更ない。

(委員)

昨年は農作物等の種苗代も含まれていたか。

(事務局)

含まれていた。

(会長)

申請のあった事業について検討するとき、今のような意見を配慮して選定していくのもひとつの方法だと思う。選考委員を希望の方は2月中に連絡をいただきたい。

(委員)

平成28年度の交付金の監査は誰がするのか。

(事務局)

監査というのは実施した団体の会計処理がどうだったかという確認のことでよいか。

(委員)

よい。あとは実施内容が申請のときと変更がないか等、あまりにも内容が変わっていたりしたら、いかがなものかと思うので、その辺りを確認するのは誰がするのか。

(事務局)

交付金の流れは、申請後、事業が決定したところで交付決定の通知を送っている。事業

実施後概ね一か月位の間の実績報告書を提出いただいている。事業の内容、どんなことをしたのかということが分かるような書類を提出いただくとともに、会計処理が適正であったかを確認するための収支関係書類を提出いただいている。事務局で、その書類と必要があれば聞き取りをして事業の内容が正しく申請どおりの事業だったのか確認し、その後に交付金額の確定をして金額を通知している。確定した金額で請求いただいて交付金を支払うということになる。事務局で計画どおりの事業だったのか、支払等の会計処理が適正だったのか確認をした後に交付金を支払っている。

(委員)

監査は全部事務局側ですということか。

(事務局)

現状は事務局で行っている。

付け加えると、市の公金から支出をするこの交付金も、他の補助事業についても基本的には事務局で確認をするわけだが、市に選任されている監査委員がいるので、全ての事業を監査をするとは限らないが、必要に応じて監査委員がその事業の点検をすることができるようになっているので、場合によっては市の監査委員が監査することもある。現状は市の担当職員が確認をしている。今回の協働のまちづくり交付金の会計状況ということではないが、それぞれの地域で行われている事業について年度末に報告会を計画しているので、参考にさせていただき全市的にさまざまな事業が展開されることを期待している。

(会長)

今説明があったとおり事務局で報告を受け確認し、それでも足りない場合は監査委員にさせていただくことになる。嚴重かと思う。報告会の予定について何かあるか。

(事務局)

報告会は今のところ3月22日水曜日の午後6時半から予定をしている。内容については本来は全ての地域協議会から優良事業、全市に広がっていったらいいような先駆的な事業を報告してもらった方がいいのだが、時間の都合もあるので、理想的で先駆的な事業についていくつかの団体から報告をしていただく予定でいる。

(会長)

いくつかの地域あるいは団体が多目的ホールで報告するということである。

(事務局)

地域協議会の委員の皆さんには報告会について通知する予定でいるので、確認いただきたい。

(委員)

公金の流れを確認したい。先程実績報告書を提出してから金額の確定をするという話であったが、通常補助金の場合は全額払っておいてそのあと公金としてもらうという過程だが、交付金も一旦支払いを完了しなければいけないのか、その辺りがよくわからない。いわゆる通常の補助金の扱いで立て替え払いをしておいて領収書を確認した後、交付金を支払うのか確認したい。

(事務局)

交付金の支払い方法は一旦団体に掛かった経費を支払っていただいて、領収書を確認する中で交付金の額を確定していく。補助金と同じ方式で交付金を支払うのだが、団体によっては資金繰りの問題もあるので、概算払いの請求があった場合には納品書等の事業完了が確認できる証拠書類と請求書を提出いただくことで、先に交付金を支払い実績報告で精算する方法もとっている。団体から相談があれば概算払いに対応している。

(3) 伊那地域協議会での検討テーマについて

(事務局)

伊那地域協議会での検討テーマについて説明。

(会長)

アンケートに答えていただいて 33 件の問題が出された。今までは前年度の問題を継続して検討してきた。皆さんの意見を検討テーマとして進めていくのが地域協議会である。様々な問題がいろいろな角度から出ている。他の方が提案した問題について、質問・意見をいただいて検討テーマを絞っていききたい。

(委員)

4 番のスマートインターが 9 月供用開始ということで、ここの開発は農振地域ということで通常は開発できないが、スマートインターができると 300m は許可してもいいということになる。従ってそこにどういうものを許可するかある程度市の方で規制をかけないと乱開発になってしまう。私としては 4 番を特に重要視して検討していきたい。

(委員)

3 2 番の危険な木の伐採は、1 年に 1 回日影区と安協の皆さんが実施している。実際去年私も係わったが、非常に車が通るところを安協や消防の皆さんが気を付けながら伐採している。やはりよその家の木ということもあるので、手が届くくらいの位置というか車に乗ってさらに高くして切るくらいしかできないので、日影区と市で業者に頼んで伐採してくれるとありがたい。

(委員)

先程発表の段階で高遠・長谷の過疎とは違うという話があったが、伊那市の中心であっても過疎の問題というのは随分進んでいると思う。私は平沢の出身なのだが、小沢にあった保育園が5年間の休園期間を経て、ついに廃園になるという。何番という言い方をすると25と28に係ると思うが、要は小沢地区にあった保育園が廃園になってしまい小学校の学区に保育園が一つもなくなってしまうという話はおかしいのではないかと思う。人数が多いところについては保育園があるのだが、人数が少なくなれば保育園も廃園してしまうという。経済的にどうかというのとは違う問題があると思うので、過疎化について協議会でテーマとしたい。

(事務局)

先程の過疎という言葉について説明が足りなかった。高遠・長谷と違うという表現については、高遠・長谷は国の法により過疎地域に指定がされているということで、その過疎地域とは違うという意味合いで申し上げた。人口減少問題、過疎化が進んでいるという問題については大変重要な課題であると思うので、テーマの選択については皆さんで検討いただきたいと思うが、先程の過疎という表現については、こういった事情からである。

(委員)

将来を考えると高遠・長谷だけではなく伊那市全体も過疎化が進んでいく現状にあると思う。今から検討していく必要がある。過疎が進んで保育園児が1人2人しかいないという話になり、だから廃園してしまうという考え方はどうかと提言していきたい。

(委員)

地域の活性化が盛んにいわれていて、中心市街地の活性化というテーマで検討してきたグループがあったが、市街地の空洞化であるとか農村部の過疎化などこういった人口の減少が特に竜西地区に顕著に表れている。伊那中学校の生徒もかなり減少してきている。竜西地区は徐々に衰退してきているという中で、スマートインターも様々な取り組みをしていかなければならない。地域協議会の中で検討をしていくにしても、法的な関係は市の行政の中で横断的な取り組みをしていく必要がある。地域協議会の検討テーマとして取り上げられないとしても、行政に働きかけ、スマートインターができただけであるということがないようにしていきたい。

伊那市は住み良い田舎とか子育て世代にぴったりな田舎ということで全国でも上位に位置している。それから伊那市の市民憲章の中に子育て日本一の住み良いまちづくりというのがあって、理念に基づくような方向性を考えていかなければならないと思う。人口が減ってきたので切り捨てていいというのではなくて、そういった取り組みを今いろんな地域の特色も取り込まれている中で、考えていかなければならないと思う。今非常に懸念しているのが、伊那西部保育園が休園となって5年が経過するというので、長野日報にもでているが、既に市から条例の改正案が提出されているとのことである。伊那西部地区も非

常に危機感を持って、4つの区と荒井区、西町区等が集まってどういう方向で考えていかなければならないかといったことを話している。テーマがいくつも出ていて内容が重複しているものもあるので、事務局で同じような内容のものはまとめて整理をするなかで、選んでいくのがいいのかなと思う。

(委員)

市としてやらなければいけないこと、区としてやらなければいけないこと、地域協議会で検討しなければいけないことがあると思うが、事務局で分類してテーマを絞って進めた方がいいと思う。

伊那西部保育園が廃園になるとのことであるが、これは決定ではないらしい。去年の暮れの新聞には廃園と書いてあったようだが、3月の定例議会で市の方から提案があり、そこで決をとるということである。

いずれにしても西地区の高齢化が進んで、若い人たちは外にでてしまう、残ったのは年寄りばかり、どの地区も保育園・学校というのが大きな問題となっている。新山みたいな形で進めて、もっと魅力をPRしながら人を呼ぶ作戦を長い目で実行していく必要があるのではないかな。

(会長)

補強意見がいくつ続いた。他はよろしいか。

班の構成は、前回までグループで検討してきたが、今までと同じように10人前後で4つの班でよいか。

<異議なし>

(会長)

検討テーマが33出されているが、平成29年度とすればいくつくらいのテーマがいいか。1年かけて検討するわけだが、いくつくらいのテーマならば検討が可能か。

(委員)

出された検討テーマをみると、系統だって整理されていない。同じようなテーマがあったり、地域に特定化されたものが分散してあったり、これをみているかぎりもう少し統合されて整理できるのではないかな。

(委員)

今まで検討してきたテーマが前の協議会から引き続きの検討というのもおかしな話で、今期で結論を出していかないとまた次年度に繰り越しになってしまう。今年度検討するかぎりは、今年度中に結論を出すということで検討していきたい。

(委員)

8テーマを選んで、優先順位を決めてまず4つ検討して結論が出たら、5番目6番目と検討していけば良いと思う。

(委員)

テーマの中には市や区で検討した方がよいこともあるので、事務局でもう一度整理分類して並べなおしていただきたい。

(委員)

事務局でテーマを整理してくれないと、いつまでも決まらないと思う。

(委員)

今の案に賛成で、出されたテーマの中を地域協議会で検討した方がよい内容とそうではない内容と分けていただいて、最終的に4つではなくてもそれが5つでも同時進行で検討できるので、テーマごとにまとめてみたらこれくらいの数になったというところでグループを作っていったらと思う。

(事務局)

行政の役割として担当課で考えていかなければならない具体的なテーマも出されているので、整理が必要だと認識している。事務局で再度分類しテーマを絞る方法が良いだろう。3月までにもう一回協議会を開催する予定である。まとめたところで委員の皆さんに送るので、それぞれ検討いただいて次回の協議会の場で議論いただければテーマの設定ができると思う。

(委員)

事務局でいくつかに分類した中で、みんなでどれを一番先にテーマとして検討するかと話し合いをしても、それぞれいろんな立場や考え方があってこれが大事というのは言えないと思うので、4つの班で検討するとして33項目を8つのグループに分けて1グループでテーマを2つ担当する方法が良いのではないかと。

(委員)

もれてほしくないテーマとして、昨年テーマになっていなかった伊那西地区に関することはスマートインターチェンジも含めてテーマとして取り上げてほしい。

(委員)

協議会でテーマ进行分类するのは大変だと思うので、事務局の判断で分類して委員に送る際にそれぞれ専門の知識を持っている方がどのテーマを取り組みたいか自分の意思を示し取り組みたい方が多い項目から検討していくのが良いと思う。

(委員)

出されたテーマをみると、行政と地区で取り組むことを除くと4つか5つになる。分類して皆さんが検討したいと集まればおのずと決まってくると思う。1年に2つも検討するのは時間もなく無理だと思うので、あまり手広く広げるのではなく、事務局でまとめてもらったものを分担して解決していく。1年で結論を出して市長に提言していきたいので、そんな形で進めていくのはどうか。

(委員)

中身を精査していただいて、行政にお願いすることと区にお願いすること地域協議会で検討することと分けて進めてほしい。もし提案した25番が取り上げてもらえるのなら、西地区に関係する班で検討してもらおう形にしてもらいたい。

(委員)

7番と32番は場所が違っても同じ内容だと思う。対応は地域協議会で検討しても結論は出ないので、意見が出ていることを担当の課につなげてもらい、その結果の報告も含めてまとめればテーマが精査されると思う。

(会長)

次回の地域協議会の前までに事務局でテーマを整理する。整理する際の視点は今出していただいたので、それを加味して整理し絞っていただく。地域協議会として協議していくのにふさわしいテーマを絞っていただくということによろしいか。

<異議なし>

6 その他

特になし

7 閉会

(副会長)

今日は大変寒い中出席いただき、また熱のこもった意見を数多く出していただきありがとうございました。以上を持ちまして、第7回の伊那地域協議会を閉会とする。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成29年2月1日 平成28年度 第7回伊那地域協議会 会議録

会 長 _____

会議録署名人 _____

会議録署名人 _____